

不整脈に「カテーテル・アブレーション」 最新鋭「3Dマッピング」で再発を抑える

循環器内科の患者の割合は、不整脈が4割、狭心症が3割、残りが下肢動脈閉塞や心不全。

宮本副院長の専門は不整脈の治療で、カテーテル・アブレーション治療を通算2000例以上手がけ、同院でも年間300例程実施する。

心房細動などで行われる高周波カテーテル・アブレーション治療は、足の付け根と頸の静脈から3本のカテーテル（直径2〜2.5mm）を挿入し、疾患部位を焼灼する治療。薬物治療より予後がよく、再発率も1割程度。低侵襲なので高齢の患者にも適用できる。

それを支えるのが疾患部位（異常電気興奮部位）を評価・特定で



宮本 憲次郎副院長・長
不整脈治療センター

（みやもと けんじろう）札幌医科大学卒。札幌医科大学（循環器科医長）、札幌心臓血管クリニック（副院長）を経て、2016年4月から札幌白石記念病院に勤務。21年4月に副院長・不整脈治療センター長に就任。日本循環器学会認定循環器専門医、日本不整脈心電学会認定不整脈専門医、日本内科学会認定内科医。

きる「3Dマッピングシステム」。同院では、道内でも最新鋭の「ウルトラハイリゾリューション・マッピング」（2機種）やコンタクトフォースを導入し、再発の低減に努めている。



さらに標準治療の肺静脈隔離に加え、肺静脈以外の部位（マージナル静脈）については、局所にアールコールを注入し組織を壊死させる治療（保険適用外）を併用、再発率ゼロを目指している。

「心房細動の原因は、生活習慣病や睡眠時無呼吸症候群など多岐にわたり、それらの環境因子を整えることが大切」と宮本副院長。

社会医療法人 医翔会

札幌白石記念病院

札幌市白石区本通8丁目南1番10号
電話（011）863・5151